



SMART ILLUMINATION

スマートイルミネーション横浜 2012

10月31日(水)-11月4日(日)

象の鼻パーク、日本大通り、山下公園ほか



本当の夜

三角みづ紀

ひかりとひかりの間を
わたしたちは夜とよぶ
ひかりがあるから夜もあつて
夜があるからひかりもある

ささやかな灯りが
横浜のあちらこちらに咲いて
触れることのできるあたらしいひかり。
ふいに届くモールス信号
投影されることばたちや
真昼の陽光をあつめた夜行性のかげら
ほのかにかがやいて

「つぎはいつかしら
あの子にもみせてあげたい」

すれちがうひとの歓声
十一月のつめたい潮風
灯された風船が汽車道を彩り
ぼつかりと浮かぶ海辺の月
やわらかい夜とこれからの夜を
教えてくれたあたらしいひかり。

種をまくような幸福

本当の夜



04	ごあいさつ // Greetings
06	特別プログラム // Special Program
10	ライトアッププラン // Light up Plan
	AREA 1 象の鼻パーク
	AREA 2 日本大通り
	AREA 3 山下公園・大さん橋
	AREA 4, 5 汽船道・横浜駅東口
28	ツアープログラム // Tour Program
30	まちなか展示会 // City Street Exhibition
33	コラム // COLUMN
	COLUMN 1 国吉直行「横浜市の都市づくり活動とスマートイルミネーション横浜」
	COLUMN 2 岡田勉「スマートイルミネーション横浜2012のコンセプト」
38	イベント & ワークショッププログラム // Event & Workshop Program
46	参加プログラム // Participation Program
50	Map
51	連携プログラム // Cooperation Program
52	ナイトレストラン ミュージアム // Night Restaurant & Museum
54	広報 // Publicity
56	アンケート // Questionnaire
58	開催概要 // General Information



林 文子

横浜市長



「環境未来都市・横浜から提案する、新たな時代のイルミネーション」のテーマのもとに開催した「スマートイルミネーション横浜2012」は、平成24年10月31日から11月4日まで5日間にわたって開催され、多くの方々にご来場いただきました。

環境未来都市・横浜の特徴は、「クリエイティビティ」すなわち、質の高い文化芸術による横浜ブランドの発揮を取組項目に掲げていることで、「スマートイルミネーション横浜」は、その一環として行われているアートイベントです。

今回は、2回目の開催となり、象の鼻パーク、日本大通り、山下公園、汽船道、横浜駅周辺などを会場に、幻想的な「もう一つの横浜夜景」が創り出されたほか、パフォーマンス、ワークショップ、ツアーなど関連イベントも実施され、来場された方々に楽しんでいただきました。

開催にあたっては、国内外23組のアーティストにご参加いただいたほか、ご協賛いただいた企業、大学、商店街、市民団体など、多くの方々のご協力をいただきました。ご支援ご協力賜りましたすべての関係機関、並びに関係者の皆さま方、ご来場いただいた多くの皆さまに深く感謝いたします。

Fumiko Hayashi

Mayor of Yokohama

Smart Illumination 2012, a festival held on the theme of “presenting illumination for a new era from the FutureCity of Yokohama”, was held from October 31 to November 4, 2012.

A great number of people visited the festival.

The characteristics of FutureCity of Yokohama is that it is a project based on creativity, showing Yokohama brand by high quality culture and art, and Smart Illumination Yokohama is an art event taking part of the project.

The second occasion of the festival created a fantastical “alternative vision of the Yokohama nightscape” through Zou-no-hana Park, Nihon-odori, Yamashita Park, Kishamichi Promenade and the Yokohama Station area, as well as other related events such as performances, workshops and tours, giving visitors a fun-filled time.

Twenty-three groups of artists from both inside and outside Japan participated, as well as the cooperation of many companies, universities, shopping streets and citizens groups and so on. I wish to express my appreciation to all those organizations and individuals cooperating in the event, and to all those who attended it.

国吉 直行

スマートイルミネーション横浜実行委員長

横浜ではこれまで魅力的な都市景観づくりや夜景演出事業が実施されてきましたが、2011年には、創造都市事業の一環として、環境を大切に作る時代にふさわしい、LEDなど新たな光源を用いた光の演出に挑戦する試みを始めました。2011年の大晦日には、山下公園で、東北の震災被災地の皆さんへのメッセージを記し、市民の方々とクリエイターの共同作品である「ひかりの実」が展示され、共感を得ました。

そして、昨年、実行委員会の本格な事業として「スマートイルミネーション横浜2012」を計画し、国内・海外のクリエイターをはじめ、企業、市民、大学の皆さん、商店街などに参加を呼びかけました。そして、10月31日から11月4日までの開催となりました。開催会場は象の鼻パーク、日本大通りなど都心部各地区を主会場としましたが、緑区などでも独自に展開されました。

海外からはイギリス、スイス、オーストラリアの3カ国から作家を招聘し、新しく、そして楽しい光の作品の数々がそろいました。これらの作品は訪れた市民に新たな感動を与え、横浜と世界の個性的な夜景の未来を期待させました。また、期間中には、ドイツ・フランクフルトでの取り組みを交えたシンポジウムなど数々のイベントも行われました。事業実施には多くのアーティストのほか、企業の皆様、大学、商店街、市民団体の皆様にご賛同、ご協賛いただきました。深く感謝いたします。

2012年度の取り組みは成功裏に終えましたが、この成果を生かし、2013年度、新たな創造を図りたいと思います。

Naoyuki Kuniyoshi

Chairman of the Smart Illumination Yokohama Planning Committee

Although Yokohama had previously had creative cityscape development / nightscape enhancement projects, it was 2011 that saw the beginning of endeavors as part of the creative city project to give prominence to new light sources such as LEDs, coming into line with the environmental focus of the times. On New Year's Eve 2011, a message to victims of the Great East Japan Earthquake was shown in Yamashita Park and the collaborative work Shining Smile Fruit by local citizens and creators was displayed, generating fellow feeling.

Last year the planning committee formulated Smart Illumination Yokohama 2012 as its main project and lobbied creators inside and outside of Japan, corporations, citizens, academics and local shopping centers to take part. Finally, the event was held from October 31 to November 4. The venue focused on inner-city areas such as Zou-no-hana Park and Nihon-odori, as well as independent events in places such as Midori-ku. Creators from the United Kingdom, Switzerland and Australia were invited, and a great many entrancing and novel works of light were shown. These works gave the visiting citizens a novel impression and enhanced hopes towards a future of unique nightscapes for both Yokohama and the world. Various other events were also held during the festival, including a symposium with a discussion on similar initiatives in Frankfurt, Germany.

Many artists as well as people from corporations, universities, shopping centers and citizens groups encouraged and participated in the festival, for which we are extremely grateful.

Our efforts in fiscal 2012 ended on a high note, and we hope to continue on this wave to give rise to new creativity in fiscal 2013.



Speed of Light Yokohama — 3 Movements

2012年エジンバラ国際フェスティバルで発表され大きな話題となった参加型プロジェクト。

ライトスーツを纏った50人のランナーが、港の見える丘公園-山下公園-象の鼻パーク等、横浜臨海部各所を走り抜け、横浜の街を舞台に壮大な光のパフォーマンスを繰り広げた。

artist

NVA

place

港の見える丘公園～山下公園～山下臨港線プロムナード～赤レンガパーク～象の鼻テラス(象の鼻パーク)～横浜港大さん橋国際客船ターミナル～日本大通り～横浜公園 他

date

11月3日(土)・4日(日) 17:00～18:30

direction

アングス・ファークハー
Angus Farquhar

lighting design

フィル・サプル
Phil Supple

choreography

伊豆牧子 (GRINDER-MAN)
Makiko Izu (GRINDER-MAN)

special cooperation

プリティッシュ・カウンシル



アンガス・ファークハーからのメッセージ

NVA クリエイティブ・ディレクター

Angus Farquhar

NVA Creative Director

日本で「Speed of Light」を発表したことは素晴らしい挑戦でした。

特別な照明技術の開発など数年をかけて作り上げた作品を、数週間の準備期間で、横浜で作品を発表することは、NVAにとって大きな冒険だったといえます。このパブリックアートの初舞台となったのはアーサーズ・シートというスコットランドの小さな山であり、暗闇があり、古くからの自然景観の残る場所でした。ここで私たちは、エジンバラ国際フェスティバルとのパートナーシップにより、2012年ロンドン・オリンピックの文化プログラムの一環として、「Speed of Light」を披露しました。

初演は、山と長距離走という日頃気にも留めない事にスポットライトを当てることを意図していました。「Speed of Light」は、多くの一般市民が参加する特別なスポーツであり、オリンピックの期間中に選ばぬかれた選手が見せるプログラムではありません。山中の闇の背景に対して、数百人ものランナーが魅力的な光のパターンを織りなし、歩いて頂上へ登った観客によって観賞された。

それゆえに、横浜の港においては、前回とは全く異なった環境であり、臨海部の密集したビル群を背景に、都市圏の過剰な街灯りとの、せめぎ合いの中での表現であった。そして、忘れてはいけません。この作品をゼロの状態から数週間で再演することができたのは、東京在住の振付師、伊豆牧子さんと、優秀な日本のチームのお陰です。

私たちは、スマートイルミネーション横浜およびブリティッシュ・カウンシルとの共同作業において、現地のランナーが見せた対応、忍耐力、献身ぶり、集中力の高さ、難題を成し遂げるための多大なる努力に脱帽しました。それがあったからこそ、深いレベルで2つの文化の真の相互作用が生まれ、パフォーマンスの本質や核となる意図を現代的な都市生活の場にも、届けることができました。LEDライトをまとったランナーから放たれる微かな線が、近代的に築き上げられた環境に見事に収まり、夜空に新たな視覚的言語を添え、海に奥行きを与え、その光の軌跡を通りすがりの人々が眺める光景は、驚くべきものでした。

Making Speed of Light in Japan was a wonderful challenge. Put together in a matter of weeks rather than the years it took to conceive the work and develop the bespoke lighting technology, it was quite a leap into the dark for NVA. The public artwork was first shown on a dark and very old natural landscape, Arthur's Seat - a small mountain in Scotland, as part of the London 2012 Olympics cultural programme in partnership with Edinburgh International Festival.

It was designed specifically to highlight the subculture of hill and endurance running. These are exceptional sports that many ordinary people take part in, which are not

visible among the elite programmes seen during the Olympics period. Hundreds of runners made mesmerizing patterns of light against the dark background of the hill, watched by an audience who had walked to the summit.

Yokohama Docks therefore represented a vastly different arena where there would be competition with existing urban realm lighting, a confused tangle of architectural backgrounds, oh, and one week to re-stage the work from scratch with Tokyo choreographer Makiko Izu and a brilliant local team!

We were overwhelmed by the response of local runners, their patience, dedication and levels of concentration and the immense logistical efforts worked through collectively with the Smart Illumination festival and the British Council. It was as a result, a genuine interaction between two cultures on a profound level and made a performance that reflected both its roots and core intentions as well as its new urban home. It was surprising how well our subtle lines of LED runners fitted into a modernist built environment, adding a new visual language to the night sky, with the ocean adding a depth and perspective on the shifting patterns seen by the passing audience.





area 1 // 象の鼻パーク // zou-no-hana park

11

The Organic Radiance Ring

— 有機的な光の輪 —

象の鼻パークに隣接する横浜税関や神奈川県庁等の建物群にLED照明を配置、無線を経由した信号で結ぶことで巨大な光のリングを生み出した。象の鼻パークの既存LED照明も活用する等、都市空間のLED照明を一体的に演出。音楽家大谷能生による演奏をLEDの信号に変換し、音と建物群の光が同期するスペクタクルなライブパフォーマンスも開催した。

artist

藤本隆行+石橋素 (パフォーマンス: 大谷能生)
Takayuki Fujimoto+Motoi Ishibashi (Performance: Yoshio Ohtani)

place

象の鼻パーク

equipment cooperation

カラーキネティクス・ジャパン株式会社
有限会社タマ・テック・ラボ、Rhizomatiks、
バイフォトニクス株式会社

place cooperation

横浜税関、神奈川県庁本庁舎、横浜赤レンガ倉庫1号館、
波止場会館、横浜掖済会病院



Comfort #11

折れ曲がった4本のチューブ型バルーンが船外に飛び出し、光りながら海を漂う。通常チャーター便として貸し出されているクルーザーが、スイス人アーティストLang/Baumannの手により一変した。陸から眺めるだけでなく、船に乗船できる体験ツアーも実施。水際線に新しい魅力を生み出す作品となった。

artist

Lang/Baumann

place

ピア象の鼻棧橋 / 横浜港内

grants from

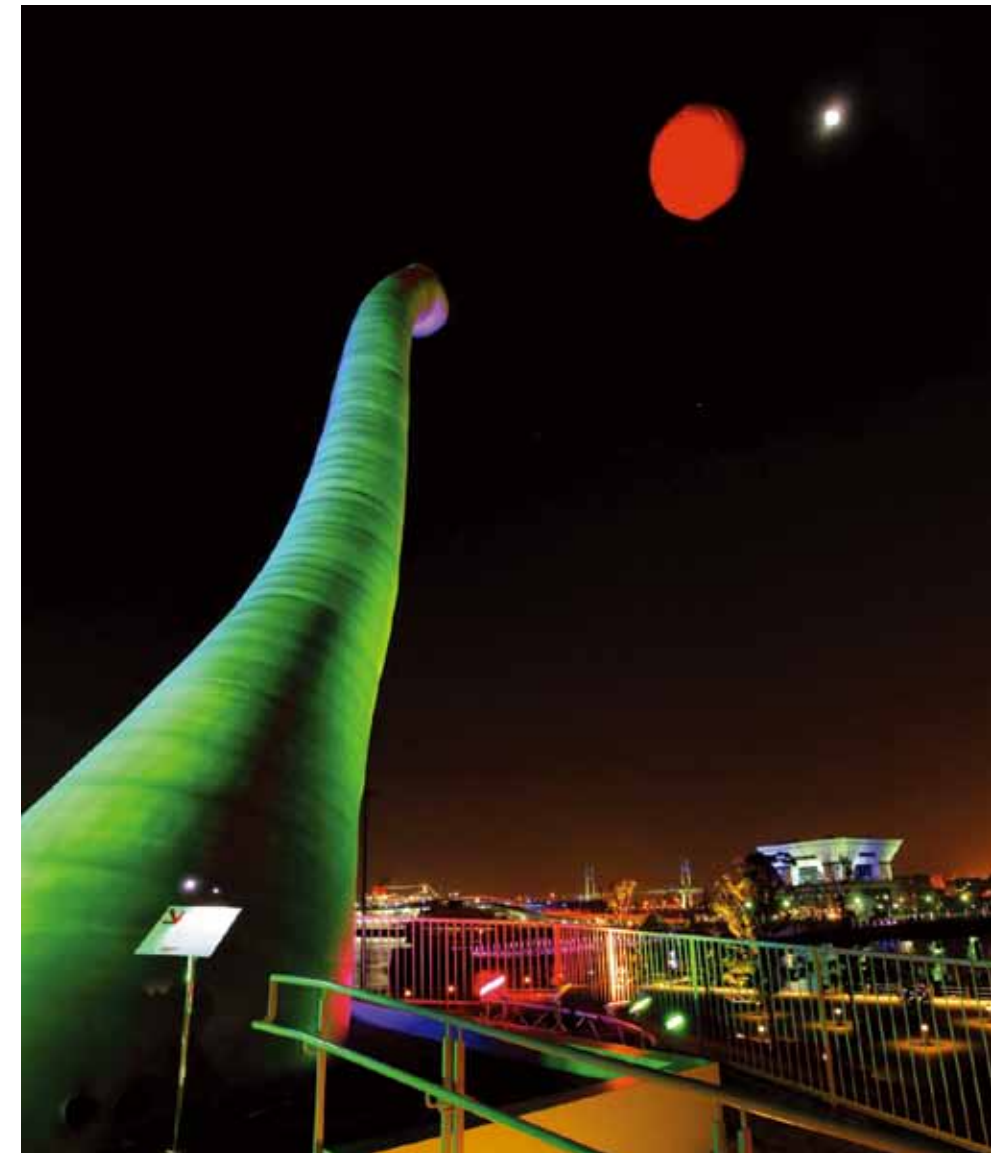
スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団

supported by

スイス大使館

cooperation

株式会社ゲーエムシーコーポレーション



Nose of Curiosity

未知への鼻

「ENJOY ZOU-NO-HANA」で制作された巨大な象の鼻のインスタレーションが再登場。ライトアップ演出を藤本隆行が行い、「The Organic Radiance Ring」と連動し、象の鼻パークのシンボルとなった。

artist

鈴木康広 (ライトアップ演出: 藤本隆行)

Yasuhiro Suzuki (Light up: Takayuki Fujimoto)

place

象の鼻テラス屋上

equipment cooperation

カラーキネティクス・ジャパン株式会社



Track

トーチカとハナブサノブユキ等アニメーション作家が、象の鼻パークと赤レンガ倉庫を結ぶプロムナード高架下で滞在制作により映像を撮影、同高架下スペースで作品を発表した。人類が火を発見する迄の進化のストーリーをライトペンのみで映像化した。

artist
トーチカ
TOCHKA

place
象の鼻パーク



Lunaware Café

ルナウェアカフェ

座ると周りから体が浮いた様に見える蓄光スツールや、蓄光の淡い光で覆われる蓄光ボックス、ライトペンでひかりの落書きができるスペース等、「蓄光塗料」の様々な楽しみ方を提案した。

artist
abanba/番場俊宏
Toshihiro Banba

place
象の鼻パーク

cooperation
コドモエナジー株式会社
株式会社菱見



Pika Pika Workshop

「よぞらにおえかき」

カラフルで多彩なペンライトアートを気軽に楽しめる専用ツール「夜空におえかき」(株式会社タカラトミーアーツ)を用いたワークショップ。参加者はトーチカと共に、横浜みなとみらいの夜景をバックに思い思いのペンライトアートを描いた。

artist
トーチカ
TOCHKA

date
10月31日(水) ~ 11月2日(金) 18:30~22:00
11月3日(土) ~ 11月4日(日) 20:30~22:00

place
象の鼻パーク

cooperation
株式会社タカラトミーアーツ



0 (zero)

— 自転車で光る大きな卵

ミラーボールに反射したひかりの粒が、空間一体にきらめく。既存電力を一切使用せず、太陽光発電と人が自転車を漕ぐ動力のみでイルミネーションを創出することで、子供から大人まで、電力を生み出す事の尊さを楽しみながら体感できるインスタレーションとなった。

artist
MIRRORBOWLER

art direction
打越俊明 (MIRRORBOWLER)
Toshiaki Uchikoshi

place
象の鼻パーク



balloomination

バルーミネーション

バルーンが傾くことで色に変化する「balloomination」。来場者がバルーンを揺らしたり、風に吹かれることで、100体の「balloomination」がそれぞれの色を放ち、その瞬間にしか見ることの出来ない風景を生み出した。

artist
竹澤葵 (株式会社 FREEing)
Aoi Takezawa (FREEing CO., LTD.)

place
象の鼻パーク



Shade of Night

夜の木陰

日本で最も古い都市計画道路であり、美しいいちょう並木が続く日本大通りに、昼と夜が反転した様な、カラフルで美しい夜の「木漏れ日」を生み出した。県庁本庁舎前のエリアには「i-MiEV」の電源供給機能を活用し、パラソルをカラフルに染め上げる「いろとりどりのパラソル」を展開し、450mにも及ぶ通り一面でのライトアップ演出が実現した。

artist

高橋匡太
Kyota Takahashi

place

日本大通り

equipment cooperation

カラーキネティクス・ジャパン株式会社、三菱自動車工業株式会社、
関東三菱自動車販売株式会社、
オスラム株式会社トラクソン・ビジネス・グループ

place cooperation

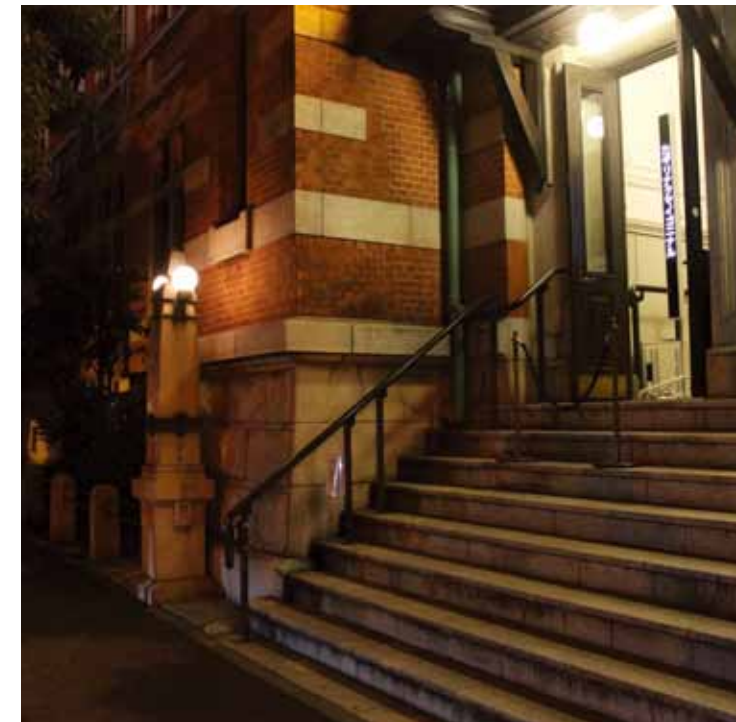
日本大通り活性化委員会、神奈川県住宅供給公社



moon flower dream

日本大通りの一角に佇む旧関東財務局内では、オーストラリア人アーティスト・Pip&Popによる幻想的な世界が広がった。開け放されたエントランスホールから中を覗くと、暗闇の中に無数の小さな光が散らばり、カラフルに彩られたドームが浮かび上がる空間は、通りがかる多くの人々を惹き付けた。作家は象の鼻テラスで滞在型制作を実施。モチーフの制作には一般の方も参加し、参加型の作品としても楽しめる展示となった。

artist
Pip&Pop
place
旧関東財務局
supported by
オーストラリア大使館



Streetlights Tweets

つぶやく街灯

建物や街灯の光を、モールス信号により明滅させ、谷川俊太郎が書き下ろした詩を、横浜市開港記念会館がつぶやくインスタレーション。
高橋匡太が横浜市開港記念会館内外のライティング演出を行い、建物の鼓動や息づかいが光で伝わるイルミネーション作品である。

artist
高橋匡太 / Kyota Takahashi
谷川俊太郎 (oblaat) / Shuntaro Tanigawa (oblaat)
place
横浜市開港記念会館
equipment cooperation
カラキネティクス・ジャパン株式会社
株式会社スタイルテック
technical cooperation
株式会社スタイルテック



Yokohama Atmosphere

横浜アトモスフィア

新宿クリエイターズ・フェスタ2012学生アートコンペティションで最優秀を受賞した本作品は、横浜バージョンに改良され、裏側のハンドルを回す事が動力となり、発電され、表面のタイヤや廃材が動きだし、発光する。
誰かが動かす事により始めて、発光体となるインスタレーション。

production
早稲田大学理工学術院創造理工学研究所
建築学専攻入江正之研究室
Department of Architecture Waseda University
Masayuki Irie Laboratory
place
横浜公園
cooperation
新宿クリエイターズフェスタ2012学生アート・コンペティション



Cinerama Boat

シネラマ / ボート

映画「地球の静止する日」を光のドットに置き換え山下公園のシンボル氷川丸に投射、映画の音声は山下公園周辺で放送された。公園ベンチは野外シアターの客席となり、この光の明滅と音声によって映画そのものが抽象化され、新たなひかりによる表現を生み出した。

artist

SHIMURAbros

place

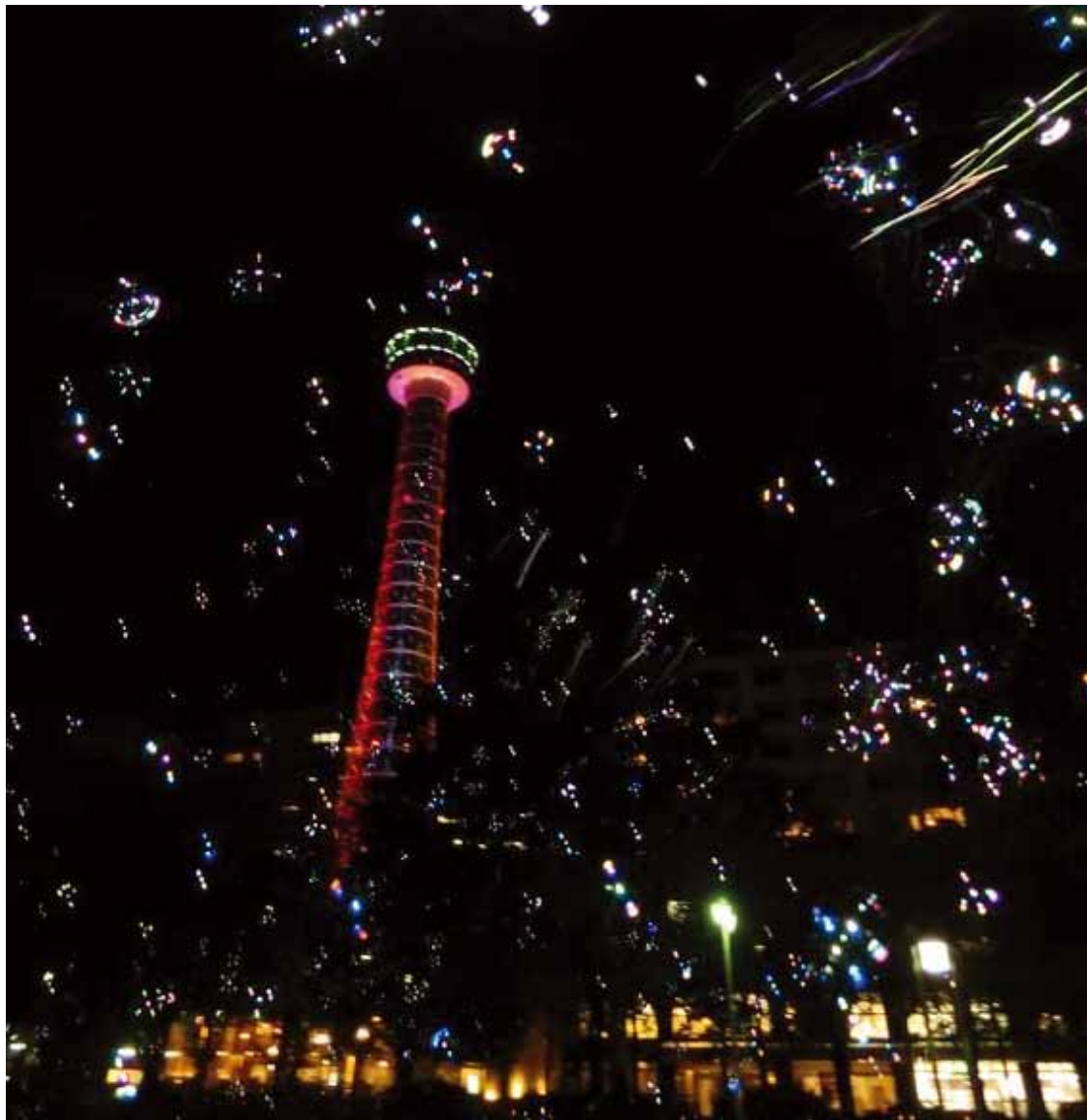
山下公園/氷川丸

cooperation

日本郵船株式会社、パイオニクス株式会社

place cooperation

日本郵船氷川丸、公益財団法人横浜市緑の協会



Night Soap Bubbles

夜のシャボン玉

暗闇では輝かないシャボン玉を、懐中電灯やストロボライトで追うことにより、シャボン玉は、まるでアニメーションのようにストップモーションとなり、夜の山下公園を背景に物語を描きだした。

production
横浜美術大学
Night Bubbles Team of Yokohama College of Art and Design

place
山下公園/横浜人形の家

cooperation
公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー



Kowai Akari

怖いあかり

蓄光スクリーンとスライドを用いた読むイルミネーション。中原中也賞最年少受賞者・文月悠光書き下ろしによる詩と、光がかけあわされた、抒情性に富むアートプログラムである。

artist
文月悠光 (oblaat)
Yumi Fuzuki (oblaat)

place
山下公園



Animation Forest

アニメーション フォレスト

伊藤有孝教授監修による学生、修了生有志による作品をふくめた17のアニメーション映像作品を山下公園で上映。小型プロジェクターを活用し、山下公園の芝生広場で省電力型のミニシアターを生み出した。

production
東京藝術大学大学院映像研究科
アニメーション専攻
Tokyo University of the Arts, Graduate School of Film and New Media, Department of Animation

place
山下公園

cooperation
NTTドコモ



Floating Shadow Project

汽車道の沿道にシルエットが浮かんだり、水が揺らめいているようなカラフルな光を発した数百個のバルーンが配置され、桜木町からワールドポーターズまでをつないだ。みなとみらいのビル群の夜景に溶け込み、回遊の楽しみを創出するサイトスペシフィックな作品が生み出された。

artist & production

クワクボリョウタ
多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース
Ryota Kuwakubo + Tama Art University,
Department of Information Design,
Art & Media Course

place

汽車道

cooperation

一般社団法人横浜みなとみらい21

place cooperation

クロスゲート



area 4+5 // 汽車道、横浜駅東口 //
kishamichi.yokohama.sta.east.exit



a tone of light

光の音色～

作曲家でもある川瀬浩介がつくった音楽に合わせて光が変化する大小様々なプランターを点在させた。光と音で幻想的な風景をつくり出すインスタレーション。

artist

川瀬浩介
Kohske Kawase

place

横浜駅東口ベストエリアンデッキ

cooperation

横浜駅東口振興協議会



The Illumination Art Tour

イルミアートツアー

全身をLEDで電飾したスーツを着たアーティストがスマートイルミネーションの会場を案内するツアー。参加者は光るバッジを身に付け、アーティストと共に動くイルミネーション作品と化した。

artist
日下淳一
Junichi Kusaka

place
象の鼻テラス(受付・スタート)

date
11月2日(金) 19:30~21:00
11月3日(土) 17:00~18:30
11月3日(土) 19:30~21:00
11月4日(日) 17:00~18:30

Wake of Light

光の航跡

航跡がライトアップされた船で、山下公園や氷川丸、赤灯台、ベイブリッジ等を巡る海上ツアー。昨年に続き第二回を迎える今回は、船の船体部分もライトアップするとともに、クルージング中には各拠点を船から照らすパフォーマンスも実施された。

artist
高橋匡太
Kyota Takahashi

place
ピア象の鼻(集合場所)

organized by
株式会社ケーエムシーコーポレーション

equipment cooperation
カラーキネティクス・ジャパン株式会社



yes/no

日東光学株式会社 / Nittoh Kogaku K.K.

象の鼻テラス外側にあるボタンを押す事で、105個のLEDライトグリッドがユニークなYES/NOを映し出す。来場者がボタンを押すと彼(または彼女)が好きかどうかを“YES”か“NO”で占う。本プログラムは、文字やパターンデザインをデザインユニットso+baが担当し、システム製作においては株式会社コマデンの協力により実現した。

artist
so+ba

place
象の鼻テラス

cooperation
株式会社コマデン



Presents from Aquamarine

アクアマリンからの贈り物
京成電子 / Keisei Electron Co., Ltd.

日本で最初のプロテスタント教会である、横浜海岸教会。横浜市の歴史的建造物でもある同施設に、京成電子社によるLED機材が、海がもたらす贈り物をイメージさせる蒼い光を投射し、教会を浮かび上がらせた。

artist
浦賀一郎

place
日本キリスト教会横浜海岸教会

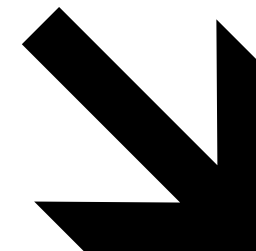


Photo contest “My Favorite Yokohama” Smart Illumination Prize

ヨコハマ 365 日フォトコンテスト スマートイルミネーション賞受賞作品

受賞者:新開 進

提供:公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー



開催へのあゆみ

スマートイルミネーション横浜は、象の鼻テラスが実施した「夜景開発プロジェクト」にそのルーツがある。象の鼻テラスは、横浜開港150周年を記念して整備された象の鼻パークの無料休憩所である。同テラスでは、多くの市民、観光客が訪れる立地を生かし、都市観光のコンテンツともなるアートプログラムの開発に取り組んでいる。

この都市観光とアートを融合する試みとして実施されたのが、2010年の「夜景開発プロジェクト」であった。ライトアートを得意とする高橋匡太と、地元の写真家である森日出夫が組み、日常とは異なる夜景を写真展として発表したこの展覧会は、アーティストによる夜景開発の可能性を多くの人に実感させる成果をおさめた。

この成果を継承した「光の祭典」を計画していた2011年3月11日、東日本大震災が発生する。節電の機運が高まるなか、「光」をつかった「祭典」の開催には大きな疑義が生じることとなる。

しかし一方で、この震災は公共空間に対する省エネルギー技術の導入の必要性を改めて実感させるものでもあった。それならば、アートと省エネルギー技術を融合させた、これまでにない夜景開発を行うことができないか。その問いかけが「スマートイルミネーション」というコンセプトに結実した。

2011年10月、第一回の「スマートイルミネーション横浜」が開催された。象の鼻テラスの主催事業でありながら、象の鼻パークだけでなく、山下公園や元町商店街に広がるエリアで展開されたこのイベントは、創造都市横浜、そして環境未来都市横浜に相応しい取り組みとして、市内外から高い評価を得た。

そして2012年、スマートイルミネーション横浜は、象の鼻テラスという施設の事業から、横浜市全体で取り組む実行委員会事業として、再び開催されることとなった。実行委員長に、長く横浜の都市景観づくり、夜景演出を牽引してきた国吉直行氏を迎え、本格的な事業の準備作業が始まった。



横浜市の都市づくり活動とスマートイルミネーション横浜

国吉 直行

スマートイルミネーション横浜実行委員会委員長
都市デザイナー・横浜市立大学特別契約教授

横浜の個性的な都市空間

横浜市は、1960年代後半から、新しい総合的な都市づくりに着手しました。横浜発祥の地である関内山手地区の再生や、造船所地区の再開発によるみなとみらい21地区の形成などによる都心部強化事業もその一つでした。横浜市は、このような都心部強化事業などを展開するに際し、単に都市の土地利用や機能性を充実させるだけでなく、横浜らしさの感じられる個性的な都市空間の建設も重視し、日本の他都市に先駆けて、1971年から、都市デザイン活動を開始しました。そして、公的な事業、民間の事業など、様々な事業が展開される際に一定の都市デザイン理念に沿って各事業のデザイン調整と誘導を行い、地区ごとに個性のある街並み形成を続けました。目標としたのは、「港と丘の都市」、「人間的な都市」、「伝統と未来の共存する都市」、「新たなデザインの実験される都市」。これまでの成果としては、①豊かな歩道や広場の創出による歩行者にやさしい都市空間の形成、②地区ごとのルールによる、建築物の高さや色彩などの特徴を持った個性的な街並み景観の創出、③歴史的資産の多様な保全活用（1988年から要綱を運用）、④歴史的建造物やシンボル施設への夜景演出事業・ライトアップ・ヨコハマ〈1986年から取り組み開始〉、⑤パブリックアートの効果的設置、⑥水際線のプロムナード空間の創出、⑦自然的景観の特徴を

大切にする取り組みなどがあります。これまでの継続的な都市デザイン活動により、都市のアイデンティティ形成に成功し、横浜市は景観的に優れた都市の評価を得るまでになり、多くの来街者を集め、企業誘致などにも一定の成果をおさめてきました。

創造都市、環境未来都市としての飛躍

2004年、横浜市は、文化芸術活動を活発化により地域の活力の形成を図る新たな政策「クリエイティブシティ・ヨコハマ」を発表し、これまでの、都市デザイン活動による個性的都市空間形成（空間の創造）からさらに進んだ、主に活動の創造に重心を置いた取り組みを開始しました。これまでに、「馬車道創造界限」などにおけるBankART1929、ヨコハマ創造都市センターなど、歴史的建造物などを活用した文化芸術の多様な展開や、新しい水際線歩行者空間整備の一環として設置した「象の鼻テラス」の設置運営、初黄地区での地域再生活動などが成果となっており、また、多くの若い創造の担い手を誕生させています。さらに、近年、横浜市はスマートシティの取り組みや創造都市などを組み合わせた環境対応の都市づくりを開始していますが、2011年には国の環境未来都市に選定されました。

新しい光りの創造へ

スマートイルミネーション横浜は、夜景演出事業・ライトアップ・ヨコハマなどこれまでの取り組みを下地とし、さらに、魅力的な都市空間づくりの視点、LEDなど環境負荷の少ない光源の活用といった環境未来都市としての視点、創造都市としての創造性豊かな光り発掘の視点などからの、次代に向けた新しい都市の光りの創造を目指す取り組みです。関連企業や照明専門家、アーティスト、大学、地域の商店街などの協働による、横浜独自の展開を図りたいと考えます。

Yokohama Urban Development Activities and Smart Illumination Yokohama

Naoyuki Kuniyoshi

Chairman of the Smart Illumination Yokohama Planning Committee
Urban designer / Professor under special contract to Yokohama City University

Yokohama's Unique Urban Spaces

Yokohama City has since the late 1960s been involved in novel, comprehensive urban development. The inner-city enhancement project has been a part of this, seeing the revival of the Kannai / Yamate areas from which Yokohama City began, and the building of Minato Mirai 21 through redevelopment of the dockyards. As Yokohama engaged in these inner-city enhancement projects, rather than simply stop at effective land utilization and functionality, it emphasized construction with a feel for urban spaces unique to the city, beginning urban design activities from 1971 in advance of other cities in Japan. As both public and private sector projects went ahead, they were encouraged to align themselves with a specific urban design philosophy, continuing to form cityscapes unique to each region. Target concepts were "a city of harbors and hills," "a human-centered city," "a city fusing past and future traditions," and "a city infused with novel designs." Achievements so far are: (1) creating pedestrian-friendly urban spaces with abundant footpaths and plazas; (2) creating unique cityscapes using characteristics such as building heights / color through district rules; (3)

diverse efforts to preserve historical assets (platform operative from 1988); (4) Light Up Yokohama (begun from 1986) project to enhance the nightscape of historical buildings / symbolic structures; (5) effective placement of public art; (6) creation of promenades along the waterfront line; and (7) efforts to bring out natural scenic aspects. These ongoing urban design activities have succeeded in forming an urban identity and giving Yokohama a superior reputation as a scenic city, attracting many visitors to the city and making headway in bringing corporations here.

Towards becoming a Creative City / FutureCity

In 2004 Yokohama announced a new policy called Creative City Yokohama to invigorate localities through the use of cultural / artistic activities, beginning endeavors emphasizing the creation of activities over the previous creation of unique urban spaces (creation of spaces) through urban design activities. This has resulted in diverse artistic / cultural developments utilizing historical or other buildings such as BankART1929 and the Yokohama Creativecity Center in the Bashamichi creative area, the creation of the Zou-no-hana Terrace as part of

building pedestrian spaces along the waterfront line, and local revival activities in the Hatsune area, as well as serving to nurture the talents of younger creators. In recent years too Yokohama has begun green urban development combining the Smart City and Creative City initiatives, and was selected as a FutureCity by the government in 2011.

Creating novel lighting

Smart Illumination Yokohama, grounded in previous nightscape enhancement projects such as Light Up Yokohama, seeks to create novel urban lighting matching the new generation from the multiple perspectives of creating an attractive urban space, being a FutureCity utilizing environmentally-friendly light sources such as LEDs, and unearthing an abundance of creative lighting worthy of a creative city. We hope to forge a unique path for Yokohama through collaboration between related corporations, lighting professionals, artists, universities and local shopping centers.



スマートイルミネーション横浜 2012 のコンセプト

岡田勉

スマートイルミネーション横浜2012 アートディレクター
象の鼻テラスアートディレクター

本事業は、横浜市が掲げる街づくりのビジョン「クリエイティブシティ・ヨコハマ」を根幹に、それを推進する創造界隈拠点の一つであり、「文化交易」を活動コンセプトに運営を行う象の鼻テラスの主要事業として2011年にスタートした。同年に発生した東日本大震災、原発の事故を受け、節電の機運が高まる中、消費電力の少ないLEDやEL、蓄光塗料やEVカー、蓄電池、ソーラーパネル、キャンドルなど、省エネ技術や旧来からあるエコ技術や素材も積極的に活用したアートを一同に展開するフェスティバルとして企画された。こうした視点を中核に据えたアートフェスティバルは類例がなく、世界初と言って良い。

2回目の開催となる今回は、横浜に活動拠点を置くアーティスト、その他地域に拠点をもち国内外で活発に活動を行う日本人アーティスト、そして、特に海外からのアーティストを積極的に起用した。ブリティッシュ・カウンシルを始めとする海外の文化関係機関と協働した事は大きな成果であった。とりわけ英国を拠点に活動を行うアーティストグループNVAの「Speed of Light」は市民ランナーがLED装着されたウェアをまとい横浜を疾走すると言うプログラムであったが、横浜と言う都市の特色と寛容性を顕在化し、市民と都市が光を媒介に融合する見事な取り組みであった。

参加アーティストには、本事業の主旨、横浜と言う独自の公共空間を有する環境を十分に反映する事を考慮に入れて計画を練り上げて頂いた事は言うまでもない。また、会期中に実施したシンポジウムでは、フランクフルトで開催されている夜景イベント「ルミナール」を組織しているキュレーターを招聘、横浜とフランクフルトの連携についての意見交換を行ない、今後積極的に連携、発展させる足がかりを築いた。展開エリアについては、象の鼻パーク、山下公園など都心臨海部、また、横浜の重要な都市軸である日本大通りを中心に、横浜公園、みなとみらい地区、横浜駅周辺にまで実施範囲を拡張した。

また、「みんなでつくる横浜夜景」をコンセプトに市民団体や大学、施設による参加のほか、関内、日本大通り周辺の飲食店舗に参加を呼びかけ、幅広い参加形態を実現した。作品においては「ひかりの遊び場」と称し市民参加体験型の作品を数多く採用した。同時にパンフィコ横浜で開催された「スマートシティウィーク」と連携、横浜の歴史的建造物などを活用した企業PRを呼びかける「まちなか展示会」を実施した。

本事業は、昨今、年末の商業施設等を舞台に繰り広げられるイルミネーションイベントとは異なり、決して光源の量やきらびやかな有様を良しとするものではない。2011年の暗い町並み、駅等公共空間をご記憶だろうか？ 震災直後で不安な気持ちを増長した側面はあったものの、この照度で全く問題無くやって行ける事が改めて認識され、かつ、町並みが美しく感じられたのは筆者だけではなかったはずだ。ヨーロッパの町並みのようだ、と言う声さえよく耳にした。小さな光は仄かだけれども人々に安心や安らぎを与え、日常と異なった語らいが生まれる。その話題の中にはきっと我々の今後の暮らし方、生き方が含まれると信じたい。そんな、夜の豊かな暗さを市民や来場者の方々と共有し、新たな都市生活像を育む事が本事業の目的である。

Concept of Smart Illumination Yokohama 2012

Tsutomu Okada

Smart Illumination Yokohama 2012 Art Director
Zou-no-hana Terrace Art Director

This project was started in 2011 as one of the primary projects of Zou-no-hana Terrace, run on the concept of “cultural trade” and one of the creative hubs promoting the Creative City Yokohama vision for Yokohama City development. Following the Great East Japan Earthquake and nuclear disaster of that year, the festival was planned as a gathering together of art actively utilizing energy-saving technologies and traditional eco-friendly materials such as low energy consumption LED and EL, luminescent paint and electric cars, storage batteries, solar panels, candles and so on. An art festival with such a focus is almost unheard of, even perhaps a world first.

This being the second time the festival was held, it actively sought out artists based in Yokohama, Japanese artists active in other places both inside and outside Japan, and in particular artists from other countries. Cooperation with international cultural agencies such as the British Council garnered great results. In particular the Speed of Light program item by NVA, a group of artists based in the U.K., featuring citizen runners going through Yokohama clad in wearable LED, highlighted the special qualities and openness of the city of Yokohama,

splendidly fusing the citizens and the city through the medium of light.

The participating artists were of course asked to bring into their plans the main purpose of this project to fully reflect the unique environment of public spaces of Yokohama. The curator of the nightscape event Luminale held in Frankfurt was invited to the symposium held during this festival, leading to discussions on collaboration between Yokohama and Frankfurt, building the foundations of future positive cooperation. The festival area expanded to take in Yokohama Park, Minato Mirai, and Yokohama Station, focusing on central oceanfront areas like Zou-no-hana Park and Yamashita Park, and Nihon-odori, one of Yokohama’s primary urban axes.

In addition, the concept of a “Collaborative Yokohama Nightscape” achieved widespread involvement, from citizen groups, universities and facilities to calling on restaurants in Kannai and Nihon-odori to participate. Hikari no Asobiba (Playground of Light) also took up many works involving participation of local citizens. Machinaka Tenjikai (Inner City Fair) called on corporate

PR using historical buildings in Yokohama as part of the Smart City Week held at Pacifico Yokohama at the same time.

This festival differs from the illumination events that unfurled at the end of last year using commercial facilities as its stage in that it did not revel in the sheer volume or gorgeousness of light. Surely we all remember the darkened skyline, stations and other public spaces of 2011? I’m sure I was not the only person to once again realize that with this illumination we could make a go of it with no problems whatsoever, and to feel the beauty of the cityscape, despite the increased insecurity immediately following the earthquake. I even heard many times how much like a European city it looked.

The glow of such dainty light gives people a sense of security and peace, and opens up conversations away from the everyday. I’m sure such talk will lead to how we should be and live in the future. The aim of this project is to give rise to a new pattern of city life, sharing the rich darkness of night with our citizens and visitors in just such a way.

Event & Workshop Program

イベント&ワークショッププログラム



Opening Ceremony of Smart Illumination 2012

スマートイルミネーション横浜 2012 点灯式

スマートイルミネーション横浜2012のオープニングイベントとして、プレス・協賛社・関係者を招待した点灯式を開催。点灯式内では、象の鼻パーク全体のイルミネーション作品が一齐に点灯するアトラクションの他、市民参加による「つないだ手のひかり」の撮影会が行われ、彩りを添えた。

place
象の鼻パーク

date
10月31日 18:00~18:30

presence
鈴木隆 (横浜市副市長)
ジェフ・ストリーター (プリティッシュ・カウンシル)
中山こずゑ (横浜市文化観光局長)
長谷川巧 (株式会社FREEing)
国吉直行 (スマートイルミネーション横浜実行委員会委員長)
岡田勉 (スマートイルミネーション横浜2012アートディレクター)



Reception Party

レセプションパーティ

点灯式後に開催されたレセプションパーティでは、フードデザイナーの中山晴奈とPip&Popのコラボレーションによるイルミネーションをモチーフとしたフードが提供された他、トーチカ、大谷能生によるライトパフォーマンスも行われ、会場を大いに盛り上げた。

place
象の鼻テラス

date
10月31日 18:30~21:00

artist
中山晴奈/Haruna Nakayama
Pip&Pop
トーチカ/TOCHKA
大谷能生/Yoshio Ohtani

cooperation
CUEL
東京造形大学 CS-lab
CS-lab at TOKYO ZOUKEI University



Smart Illumination Symposium

スマートイルミネーション・シンポジウム

ドイツ・フランクフルトから、スマートイルミネーションと類似する夜景イベント「Luminale」を推進するキュレーター、ヘルムート・ビーン氏を招聘。フランクフルトでの事例プレゼンテーションの他、パネルディスカッションを行い、今後の都市間交流についての可能性についても話し合った。第三部ではLang/Baumann他海外参加アーティストによる作品意図のプレゼンテーションを行い、スマートイルミネーションでの取り組みを広く知らせる場となった。

place
象の鼻テラス

date
11月1日(木) 15:00~17:30

grants from
ヨコハマ夜景演出事業推進協議会

第1部：フランクフルト「Luminale」の概要

登壇者：Helmut M. Bien (Luminaleキュレーター)

第2部：フランクフルトと横浜、連携の可能性

登壇者：Helmut M. Bien (Luminaleキュレーター)

国吉直行 (スマートイルミネーション横浜実行委員会委員長)

矢野修司 (横浜市文化観光局 創造都市推進部長)

岡田勉 (スマートイルミネーション横浜2012アートディレクター) ほか

第3部：アーティストトーク

登壇者：Lang/Baumann、NVA、Pip&Pop、高橋匡太、トーチカ ほか



第二部：ヘルムートビーン氏とパネリストによる質疑応答

Q. 横浜は行政主体で、夜間景観の演出を進めてきた。ルミナーレは市民や企業、行政と様々な立場の人が参加しているが、どのようにスタートを切ったのか。開催期間以外は、日常的にどのように市民の間で議論されているのか。(国吉)

A. ルミナーレは見本市が発端で、それまでフランクフルトが注目を集めるようなイベントはブックフェアと自動車ショーくらいしか開催されていなかった。フランクフルトという街をアピールするために、ルミナーレの骨格となるコンセプトを私が考えた。今ではルミナーレから始まって常時インスタレーションとなった作品も多く、街のあちこちにイルミネーションを広げようという動きが見られるようになった。(ビーン)

Q. スマートイルミネーション横浜の印象は？(岡田)

A. とても素晴らしく、持続性とインタラクティブティに関しては、ルミナーレよりも積極的な姿勢が伺えた。(ビーン)

Q. 民間企業をプロジェクトに巻き込むための秘訣はあるのか。(岡田)

A. 特に秘訣はないが、ある特定の産業が抱えているプロジェクトに結びつけられればうまくいくことが多い。例えば不動産業界は、空き家や新築物件をどう魅力的に見せるか注力しており、ルミナーレのコンセプトとは相性がいい。(ビーン)

Q. 150から170もの作品のクオリティはどのように保っているのか。(岡田)

A. ルミナーレを代表するようなプロジェクトは、すぐれた建築家やデザイナー、アーティストを招致することで高いクオリティを実現しているが、すべてのプロジェクトがトップレベルというわけではない。ルミナーレの勢いを保つため、ある程度妥協はしている。(ビーン)

Q. フランクフルト市の具体的な支援は？(矢野)

A. 資金提供ではなく、美術館や博物館といった場所の提供、市内にある照明の点灯、消灯、また市内の照明を扱う部署と連携している。(ビーン)

Q. リヨンなど、他のイルミネーションとの連携はしているのか。(矢野)

A. リヨンのイルミネーションは、観光客対象。ルミナーレは住民と業界人などが対象で趣が違う。(ビーン)

Q. ルミナーレのチームの人員は？(国吉)

A. プロジェクトオフィスはふたりだけ。分散型のプロジェクトなので、マッチメイクしたら、あとはアーティストや会場提供者などがお互い話し合っでそれぞれの責任で進めてもらう。安全管理もそれぞれの場所で責任を持ってやってもらう。(ビーン)

Q. 期間中の回遊性の確保は？

A. 期間限定のバスルートやガイドツアー設置。また街の各所にインフォメーションイベントを開催し、情報を提供する場所を複数用意して、来場者がまんべんなく見て回れるよう配慮している。(ビーン)

Q. 横浜とフランクフルトの提携について、どのような可能性があるか。

A. 具体的なことはこれから考えていきたいが、例えば次回のルミナーレに、横浜を代表するアーティスト集団として、参加していただけるのであれば、場所探しのお手伝いは喜んでしたい。(ビーン)



Smart Theater
 – *The Organic Radiance Sound*
 – 有機的なひかりの音

やくしまるえつこが、9次元を駆使して音を出し光を放つオリジナル楽器「dimtakt」を用い、「The Organic Radiance Ring」により生み出された象の鼻パークに隣接する建物群のひかりを操作するライブパフォーマンスを実施した。

place
 象の鼻パーク

date
 11月2日(金) 20:00～20:30

performed by
 大谷能生、やくしまるえつこ

lighting
 藤本隆行

Interaction design
 真鍋大度

sound
 堤田祐史(WHITELIGHT)

cooperation
 Rhizomatiks、みらいレコース



Night Picnic & Marché
 ナイトピクニック & マルシェ

象の鼻テラスの屋上でイルミネーションの風景を楽しみながらピクニック。展示会場を巡るバスツアーや、産直品のマルシェも同時開催した。

place
 象の鼻テラス・屋上

date
 11月3日(土) 14:00～マルシェ
 17:30～ピクニック 18:30～20:00バスツアー

organized by
 ヨコハマピクニッククラブ(横浜まちづくり倶楽部)

cooperation
 象の鼻カフェ、株式会社よこはまグリーンピース



Hideo Mori Photo Exhibition
 スマートイルミネーション横浜 2012
 森日出夫写真展

同時開催：ヨコハマ 365 日フォトコンテスト受賞作品展

森日出夫氏により撮影された、スマートイルミネーション横浜内の作品写真を始め、「残したい・伝えたい景観部門」、「ふれ逢うまち部門」をテーマに一般公募から選出された、も同時に展示された。「ヨコハマ365日フォトコンテスト」受賞作品も同時に展示された。

place
 象の鼻テラス

date
 2013年 2月19日(火)～3月3日(日)

artist
 森日出夫

organized by
 スマートイルミネーション横浜実行委員会

supported by
 公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー





Shining Smile Fruit Station

ひかりの実ステーション

高橋匡太発案の《ひかりの実》の制作体験ができるステーションを、会場内のエリア3カ所、象の鼻パーク、山下公園、日本大通りに設けた。

place

象の鼻パーク、山下公園、日本大通り

date

10月31日(水)～11月4日(日) 17:00～22:00

equipment cooperation

カラーキネティクス・ジャパン株式会社



The Trial of Illuminated Coats

日下淳一 《イルミウェア試着体験》

「電飾衣装を着てみたい」という要望に応じて制作された男女一對のコートを試着して記念撮影出来る参加型プログラム。

place

象の鼻テラス

artist

日下淳一

Junichi Kusaka

date

10月31日(水)～11月4日(日) 17:00～22:00

※18歳以上の男女、要カメラ持参

cooperation

住友スリーエム株式会社



LED Classroom for Parents and Children

親子LED教室

LED照明に関する展示や多様な参加型装置により、LEDの仕組みを楽しく学ぶ事ができる体験型ワークショップ。

place

象の鼻テラス

date

11月3日(土) 13:00～19:00

organized by

特定非営利活動法人LED照明推進協議会



Pika Pika Workshop

— みんなで巨大な象をえがこう！

アーティストと各回50名の参加者が協力し、ライトペンで光る地上絵を描くワークショップ。周りとの息を合わせ、巨大な象を描きだした。

place

象の鼻パーク

artist

トーチカ

TOCHKA

date

11月3日(土)・4日(日) 18:30～20:00



Workshop “Looking for the Light”

ひかりを探すワークショップ

好きな光の粉を調合し、きらきら光る小さなボトルを作り、できあがったら街に出てイルミネーションにかざすことで、ボトルの中で光の粉がきらめいた。

place

大さん橋Aギャラリー(出入国ロビー)

artist

東京工芸大学

Tokyo Polytechnic University

date

11月3日(土)・4日(日) 17:00～21:00

cooperation

横浜港大さん橋国際客船ターミナル



Swinging Light

カナデルヒカリ

顔料や蓄光塗料を用いて光るオリジナル打楽器を作るワークショップ。楽器を作った後は、ジャズバンドと供に光る楽器を奏でるライブセッションも行った。

place

象の鼻テラス

artist

東京都市大学小林研究室/LamptyDumpty

Tokyo City University Koba Lab./LamptyDumpty

date

11月4日(日) 15:00～20:00

Participation Program

参加プログラム



ジョイナス彫刻の森



横浜駅東口



横浜駅西口



横浜マリンタワー



ジョイナス彫刻の森



横浜人形の家



スターバックス横浜元町店

'Shining Smile Fruit' Participation Project

ひかりの実参加プロジェクト

横浜の都心部各所の商店街、施設等が高橋匡太発案の「ひかりの実」をつかって、イルミネーションに参加できるプロジェクト。ひかりの実の展示方法は参加する施設・団体に委ねられ、各所独自に展開。ひかりの実を巡る回遊性を生み出した。

artist
高橋匡太
Kyota Takahashi

date
10月31日(水)～11月4日(日)

place
ジョイナス
横浜駅東口周辺
横浜駅西口周辺

NTT東日本 神奈川支店光 HOUSE YOKOHAMA
横浜ガスライトフェスティバル2012(馬車道通り～海岸
通り～山下公園～マリンタワー)

横浜港大さん橋国際客船ターミナル

横浜人形の家

イセザキ・モール 1・2St

スターバックス コーヒー(横浜公園店、横浜元町店、横浜[アット!])店

横浜コスモワールド

横浜マリンタワー

はちのぼ(金沢八景駅東口)

Citizen Participation – Facilities Participation Program

市民参加・施設参加プログラム



Marine Tower

横浜マリンタワー
ナイトレインボー

10角形のマリンタワーが虹色に浮かび上がる、「ナイトレインボー」が行われた。展望台ではひかりの実が展示された他、「日産LEAF」の電源でタワーをライトアップする「点灯イベント」が実施された。

date
10月31日(水)～11月4日(日) 18:00～24:00

Joinus

ジョイナス
「ひかりの実」in JOINUS

相鉄ジョイナス屋上にあるジョイナスの森彫刻公園の木々に、3000個のひかりの実が彩り、会期中はライブイベントが開催された。

place
ジョイナスの森彫刻公園

date
10月31日(水)～11月4日(日) 17:00～21:30



I Love Yokohama (ハマラブ)

横浜市内のキャンドル団体が初めて一同に集結し、横浜公園で「WE LOVE YOKOHAMA ～スマイル キャンドル ナイト～」が行われた。

place
横浜公園

date
10月31日(水)・11月3日(土)
4日(日) 17:00～21:00

cooperation
横浜キャンドルカフェサポーターズクラブ
NPO法人 I Love つづき
戸塚フリーステージ実行委員会 とつかぞく
NPO法人 日本の竹ファンクラブ
伊勢佐木・若葉町連合青年会 (ABY)
カフェ・テラ・テラ
キャンドルナイトinさかえ
保土ヶ谷キャンドルナイト
日本ロマンチスト協会横浜支部

sponsor
株式会社 ベンギンライター



横浜港大さん橋国際客船ターミナル

横浜を拠点とするI.TOONが5年の歳月をかけて制作したアニメ作品「HARBOR TALE」が特別上映され、2階出入国ロビーに登場した巨大クリスマスツリーには「ひかりの実」が飾られた。

place
大さん橋 2F CIQ プラザ

date
11月3日(水)～11月4日(日)
17:00～、18:00～、19:15～、20:30～ (上映時間18分)

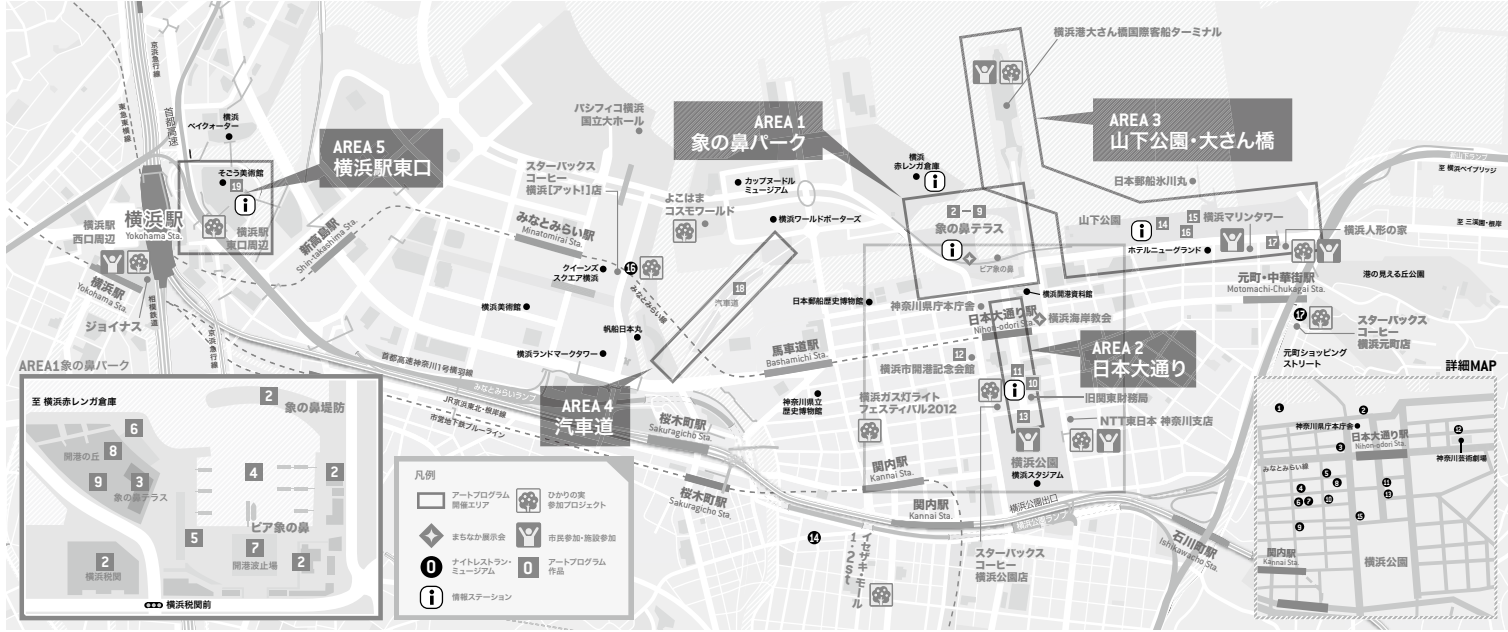


NTT 東日本 神奈川支店

光 HOUSE YOKOHAMAにおける「ひかりの実」の展示およびNTTフィルハーモニー管弦楽団による「演奏」、横浜を代表する写真家 森日出夫氏の「写真映像のスライドショー」による演奏と映像のコラボレーション演奏会が行われた。

place
NTT東日本 神奈川支店 地下食堂: Green Terrace

date
11月4日(日) 18:30～20:00
※参加費は全額、神奈川フィルブルーダール基金へ寄付させていただきます。



特別プログラム

1 Speed of Light Yokohama - 3 movements
 NVA 振付:伊豆牧子 (GRINDER-MAN)
 11月3日(土)・4日(日) 17:00~18:30

AREA 1 象の鼻パーク

2 The Organic Radiance Ring – 有機的な光の輪 –
 藤本隆行 + 石橋素
 (パフォーマンス: 大谷能生)

3 未知への鼻(象の鼻テラス屋上)
 鈴木康広 (ライトアップ演出: 藤本隆行)

4 Comfort #11 (ピア象の鼻棧橋/横浜港内)
 Lang/Baumann

5 TRACK (象の鼻パーク)
 トーチカ

6 0(zero) – 自転車で光る大きな卵
 MIRRORBOWLER

7 balloomination (パルミネーション)
 竹澤葵 (株式会社 FREeIng)

8 PIKA PIKAワークショップ「よそらにおえかき」
 トーチカ

9 ルナウェアカフェ
 abanba/番場俊宏

AREA 2 日本大通り

10 moon flower dream (旧関東財務局)
 Pip&Pop

11 夜の木陰 (日本大通り)
 1高橋匡太

12 つぶやく街灯 (横浜市開港記念会館)
 高橋匡太 + 谷川俊太郎 (oblaat)

13 横浜アトモスフィア (横浜公園)
 早稲田大学理工学術院創造理工学研究所
 建築学専攻入江正之研究室

AREA 3 山下公園・大さん橋

14 怖いあかり (山下公園)
 文月悠光 (oblaat)

15 シネラマ / ポート (山下公園 / 氷川丸)
 SHIMURAbros

16 Animation Forest (山下公園)
 東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション
 専攻

17 夜のシャボン玉 (山下公園 / 人形の家)
 横浜美術大学

AREA 4 自動車

18 Floating Shadow Project
 クワクポリョウタ + 多摩美術大学情報デザイン
 学科メディア芸術コース

AREA 5 横浜駅東口

19 光の音色 ~ a tone of light
 (横浜駅東口ベデストエリアンデッキ)
 川瀬浩介

まちなか展示会

アクアマリンからの贈り物
 株式会社京成電子
 参加アーティスト: 浦賀一郎
 (実施場所: 日本キリスト教会横浜海岸教会)

yes/no
 日東光学株式会社
 参加アーティスト: so + ba
 (実施場所: 象の鼻テラス)

ひかりの実参加プロジェクト

ジョイナス
 横浜駅東口周辺
 横浜駅西口周辺
 NTT東日本 神奈川支店光 HOUSE YOKOHAMA
 横浜ガスライトフェスティバル2012
 (馬車道通り~海岸通り~山下公園~マリントワー)
 横浜港大さん橋国際客船ターミナル
 横浜人形の家
 イセザキ・モール 1・2St
 スターバックス コーヒー (横浜公園店、横浜元町店、
 横浜 [アット!]店)
 横浜コスモワールド
 横浜マリントワー
 はちのば (金沢八景駅東口)

Cooperation Program

連携プログラム

Smart City Week 2012

place
 パシフィコ横浜
 date
 コンファレンス 10月 29日(月) ~11月 2日(金)
 展示会 10月 31日(水) ~11月 2日(金) 10:00~17:00

organized by
 日経BP社

STOP・子ども虐待 よこはまキャンペーン 2012

スマートイルミネーション新治
 「ひかり」でつなぐ、人の「わ」、地域の「わ」、
 自然との「わ」

place
 横浜市緑区 十日市場駅前~新治里山公園

date
 11月 14日(水) ~18日(日) 15:00~21:00

organized by
 緑区役所

横浜ガスライトフェスティバル2012

place
 馬車道通り~海岸通り~山下公園~マリントワー

date
 10月 31日(水) 16:30 ~19:30

organized by
 ガス灯の魅力PRイベント実行委員会

第29回スターライトヨコハマイルミネーション

place
 横浜高島屋前樹木、横浜駅西口周辺
 date
 11月 16日(金) ~2月 15日(金) まで 17:00~23:00

organized by
 横浜駅西口振興協議会

イセザキ☆ライト2012

place
 イセザキ・モール 1・2St.
 date
 11月 ~2月まで 17:00~22:00

organized by
 イセザキ・モール 1・2St.

ナイトウォークツアー

集合場所: JR桜木町駅 駅前広場
 コース: 桜木町駅~本町小学校 (ガス会社発祥の地) ~馬車道~
 海岸通り~象の鼻パーク~山下公園通り~マリントワー

date
 10月 31日(水) 16:45~19:30

organized by
 NP0法人横浜シティガイド協会

co-organized by
 馬車道商店街

NightRestaurant & Museum ナイトレストラン ミュージアム

スマートイルミネーション新治

スマートイルミネーション新治は、都心部以外で開催された最初の「スマートイルミネーション」となった。児童虐待防止キャンペーンと連携すると同時に、里山の発見をテーマに、竹林のライトアップや、地元の保育園・幼稚園や小学校との連携による「ひかりの実ワークショップ」、旧奥津邸のライトアップなどが実施された。



海岸通、日本大通り、関内周辺の飲食店16店舗、ギャラリー1店舗がスマートイルミネーションに参加し、各種サービスや限定メニューで、夜の横浜散歩をより楽しく、美味しいものにした。期間中、連携店舗へお越し頂いたお客様には、先着でピア象の鼻に停泊する豪華クルーザーOCEAN BLEUへの乗船チケットを提供。

date
10月31日(水)～11月4日(日)

- 1 Bus bar
- 2 Charan Paulin
- 3 Garland Fair
- 4 Café&Kitchen.333
- 5 オホーツク美幌食堂
- 6 FAR EAST
- 7 Gohan & Cafe 80*80 Hachimaru-hachimaru
- 8 日本料理 空海
- 9 The Bar Tenmar
- 10 Bar TRINITY
- 11 ギャラリー・バリ
- 12 cafeFLOWER
- 13 gooz
- 14 Café & Dining SAKAE
- 15 スターバックス・コーヒー 横浜公園店
- 16 スターバックス・コーヒー横浜 [アット!] 店
- 17 スターバックス・コーヒー 横浜元町店



フローティングバー! : OCEAN BLEU



Café&Kitchen.333



スターバックス・コーヒー 横浜公園店



Gohan&Café 80*80



The Bar Tenmar



gooz



Charan Paulin



日本料理 空海



Bar TRINITY

Publicity

広報



スマートイルミネーション横浜2012のテーマは「光と影を巡る夜」。

光とは闇に浮かび上がるもの。その闇をつくること、みつつけることもまたイルミネーションの一つと考えた。メインビジュアルは、横浜の歴史的建造物や光の遊び場の風景を「影絵」をモチーフに表現。今年度は交通広告の強化やSNSでの発信に取り組み、より広い層に対して情報を届けることができた。

グラフィックデザイン: so+ba

Media Coverage List

メディア掲載リスト

媒体	件数
雑誌	5
フリーペーパー	9
WEBサイト	64
ラジオ	6
TV	11
新聞	19

依頼会社	掲載誌／番組名
雑誌	
びあ編集部	秋びあ 2012 首都圏版
スターツ出版㈱	オズマガジン
㈱角川マガジンス	横浜ウォーカー
㈱角川マガジンス	横浜ウォーカー
スイッチ・パブリッシング	SWITCH

フリーペーパー	
カラーキネティクス・ジャパン	CK VIEWS
サンケイリビング新聞社	サンケイリビング横浜南版
OPEN YOKOHAMA	OPEN YOKOHAMA
横浜市民局	広報よこはま 中区版
横浜観光コンベンション・ビューロー	旅うらら横浜ガイド MAP
サンケイリビング新聞社	シティリビング横浜
はまかぜ新聞社	横浜はまかぜ
サンケイリビング新聞社	リビング新聞 (リビング横浜南)
㈱ばど	情報誌 ばど

新聞	
神奈川新聞社	神奈川新聞 (横浜)
読売新聞社	THE DAILY YOMIURI
朝日新聞社	朝日新聞
読売新聞社	読売新聞 (横浜版)
読売新聞社	読売新聞 (川崎版)
朝日新聞社	朝日新聞 (神奈川)
毎日新聞社	毎日新聞 (相模)
毎日新聞社	毎日新聞 (湘南)
毎日新聞社	毎日新聞 (川崎)
毎日新聞社	毎日新聞 (横浜)
産経経済新聞社	産経新聞 (神奈川)
日本経済新聞社	日本経済新聞 (神奈川・首都圏経済版)

上毛新聞社	上毛新聞 (前橋)
神奈川新聞社	神奈川新聞
共同通信社	共同通信
報知新聞社	報知新聞 (東京)
神奈川新聞社	神奈川新聞
日刊スポーツ新聞社	日刊スポーツ (東京)
中日新聞東京本社	東京中日スポーツ (東京)

ラジオ	
FMヨコハマ	Travelin' Light
FMヨコハマ	YOKOHAMA My Choice!
FMヨコハマ	MORNING STEPS内YOKOHAMA DELIGHT
RFラジオ日本	ホッと横浜
TBSラジオ	安住紳一郎の日曜天国
FMヨコハマ	E~ne!good for you内YES!For You

TV	
NHK	こんにちはずっと6けん
NHK横浜支局	NHKニュース (首都圏ネットワーク)
NHK	ニュースウォッチ9
NHK国際放送局	
テレビ朝日	やじうまテレビ! 〜マルごと生活情報局〜 (全国)

テレビ朝日	やじうまテレビ! 〜マルごと生活情報局〜 (首都圏)
テレビ朝日	ワイド! ス克蘭ブル
フジテレビ	不明
横浜ケーブルビジョン	YCV ch
ケーブルシティテレビ横浜	
キューテ 国営放送	
MX-TV	

WEBサイト	
朝日新聞社	朝日新聞デジタル
産経新聞社	SankeiBiz
NHN Japan	livedoor
NECビッグロープ	BIGLOBE
－	CNN
エキサイト株式会社	excite
NTTレゾナント	goo
－	@nifty
株式会社 日刊工業新聞社	日刊工業新聞Businessline
株式会社	
クリエイティブ・リンク	AFP BB News
朝日インタラクティブ株式会社	Cnet
－	Zdnet
株式会社 マイナビ	COBS ONLINE
－	RE: SOURCE
－	とれがま16
財経新聞社	財経新聞
－	Mapion
㈱ブレイン	観光庁 Visit japan キャンペーン「日本旅遊活動」
SHIFT JAPAN	SHIFT
CINRA	CINRA.NET
東京急行	東急沿線情報サイト とくらく
㈱ジェイ・キャスト	J-CAST 東京バーゲンマニア
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
タイムアウト東京	ヨコハマ創造界隈EVENT&NEWS
NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ	Time Out Tokyo
株式会社ミツエーリンクス	
ヤフー	ヨコハマ経済新聞
－	mediajam
NHK	Yahoo!ニュース
サイバーエージェント	OPENERS
NHN JAPAN	NHKニュース
小学館	Ameba News
エキサイト株式会社	livedoorニュース
太田出版	NEWSポストセブン
株式会社マガジンハウス	エキサイトニュース
	太田出版ケトルニュース
	WEBダカーボ

L25	mobile L25 妄想デート
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	ヨコハマ創造界隈 COMPANY FNN
－	
ソネットエンタテインメント	So-netニュース
ヤフー	Yahoo!ニュース
読売新聞社	YOMIURI ONLINE
読売新聞社	YOMIURI ONLINE
ヤフー	Yahoo!ニュース
毎日新聞社	毎日jp
ミクシィ	mixiニュース
産経デジタル	MSNサンケイニュース
ヤフー	Yahoo!ニュース
朝日新聞社	朝日新聞デジタル
株式会社ミツエーリンクス	mediajam
財団法人環境情報センター	ecoニュース
ニフティ	@niftyニュース
ヤフー	Yahoo!ニュース
神奈川新聞社	カナロコ
NECビッグロープ	BIGLOBEニュース
ヤフー	Yahoo!ニュース
NECビッグロープ	BIGLOBEニュース
ヤフー	Yahoo!ニュース
時事通信社	時事ドットコム
時事通信社	時事ドットコム
エヌ・ティ・ティレゾナント	gooニュース
公益財団法人フォーリン・プレスセンター	
オールアバウト横浜株式会社インタークロス	All About 国内旅行専門家トピックス
コミュニケーションズ	イベントレポートWEB

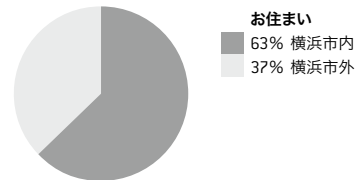
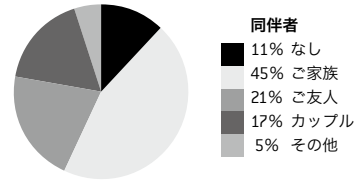
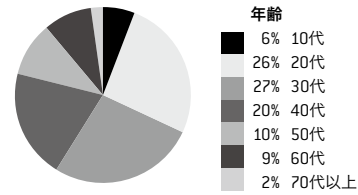
Questionnaire

アンケート

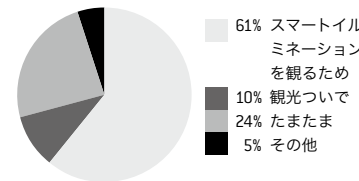


実施期間: 2012年10月31日(水)～
2012年11月4日(日)
調査箇所: 象の鼻パーク、日本大通り、山下公園、
横浜赤レンガ倉庫、汽船道、横浜駅東口
集計数: 463名

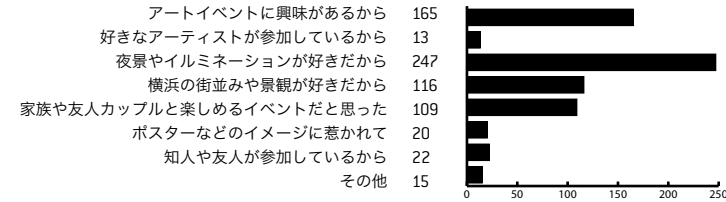
来場者のお住まいや年齢に関して



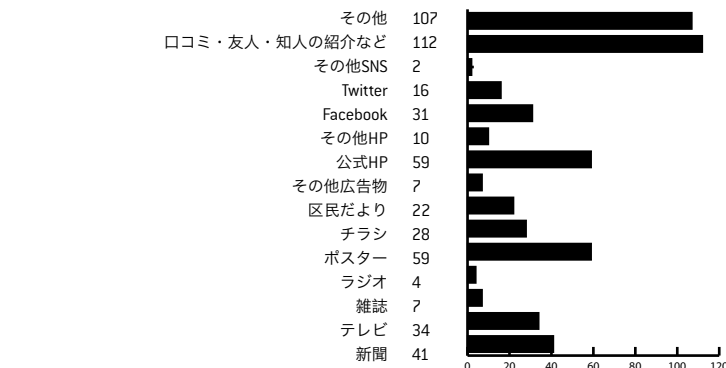
本日の会場にいらしたきっかけをお教えてください



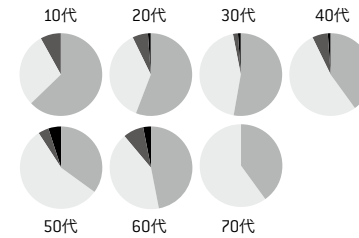
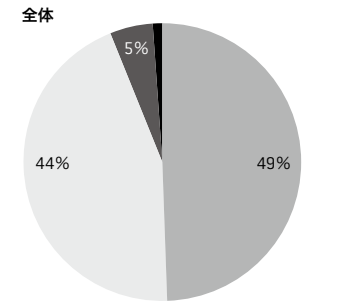
「スマートイルミネーション横浜2012を観るためにきた」を選択された方にお尋ねします。
スマートイルミネーションに興味をもたれた理由について



スマートイルミネーション横浜2012は何でお知りになりましたか？



スマートイルミネーション横浜2012全体の感想をお聞かせ下さい



とてもよかった
 良かった
 普通
 あまり良くなかった
 良くなかった

とてもよかった理由

- ・エコを考えつつの企画が素晴らしいと思った
- ・音楽とのコラボ、LEDで集団の人体の動きの表現は奇抜であった。
- ・港全体の雰囲気良かった。
- ・芸術的な要素もあって今までにないイルミネーションでした。
- ・象の鼻と周田がいっせいに変わるのがきれいでした。
- ・横浜という場で参加型のイベントはとてもステキだと思った。
- ・見ている人がみんな笑顔でよかった。
- ・横浜市全体が協力して作り上げている様子が伝わったから。
- ・今まで見た事のないイルミネーションで、優しい感じの光がとても良かった。
- ・横浜の街並みとアートの雰囲気がマッチしていて楽しめたから。

普通の理由

- ・場所が判りにくかった
- ・離れすぎている
- ・散歩するのが楽しくなるのでとても良いと思います。期間が短いのが残念です。

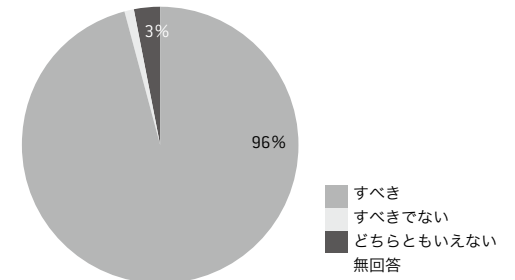
良くなかった理由

- ・もう少しインフォメーションを早くほしかった
- ・もう少し市民の皆さんが協力して、周りを暗くしてほしい。

その他ご意見

- ・告知をもっと大きくすべきだと思う (在京メディア等)
- ・子どもが楽しめるものをふやしてほしい
- ・このイルミネーションを実行するために寄付をとってください。なるべく、自治体のお金を使わないで、みんなで金を出してやりましょう!!
- ・何がどこでやっているのか、どんな内容のイベントやワークショップをやっているのかをもっとシンプルに分かりやすく書いた方がいい。(写真つきなど)
- ・また来年も来ます。会場が広いので、移動手段がほしかった。一日じゃ全部見れない。
- ・もう少し期間を延ばしても良いと思う

スマートイルミネーション横浜は来年以降も継続されるべきだと思いますか。



すべき理由

- ・コストをかけた過度なもの? だが、エコを取り入れたものなので継続されてはと思う
- ・今度はもう少し長く開催し、もっと大きく広告して欲しいです。
- ・市民参加イベントとしては手軽に参加できる!
- ・シンプルな光ですが、アートのイルミネーションが多く、楽しめた。年々重ねてやることで新たなイベントとして来場客もあると思います。
- ・とても素敵なイベントだと思いました。家族みんなで楽しめませう。
- ・久しぶりに夜の街をゆっくりとした気分で散歩してみたいと思えた。リラックスできました。
- ・皆が集える平和で楽しいイベントなので、ぜひ続けてほしいです。横浜らしいと思います。
- ・もう少し宣伝して多くの人に見てもらいたい。県外の人も。
- ・夜景が美しい横浜、計算された景色じゃないと美しいイルミネーションはできないので、ぜひつづけるべき!
- ・横浜のきれいな夜景と人がつくる光のコラボで心が温まったのでもっと宣伝するべき

General Information

開催概要

名称:	スマートイルミネーション横浜2012
テーマ:	光と影を巡る夜―省エネ技術とアートでつくる、もうひとつの横浜夜景―
日程:	2012年10月31日(水)～2012年11月4日(日) 17:00～24:00 ※初日は18:00～、プログラムにより終了時間は異なります。
会場:	象の鼻パーク、日本大通り、山下公園ほか
主催:	スマートイルミネーション横浜実行委員会
共催:	横浜市文化観光局
事務局:	スパイラル／株式会社ワコールアートセンター

<スマートイルミネーション横浜実行委員会>	
委員長:	国吉直行（横浜市立大学 特別契約教授）
副委員長:	矢野修司（横浜市文化観光局 創造都市推進部長）

委員:	中野 創（横浜市都市整備局 都市デザイン室長） 岡崎三奈（公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー 経営部長） 永田 隆（横浜港振興協会 専務理事）
-----	---

監事:	大堀 剛（横浜市文化観光局創造都市推進課 創造まちづくり担当課長）
-----	-----------------------------------

<事務局>	
事務局長:	小林裕幸（株式会社ワコールアートセンター 常務取締役）
アートディレクター:	岡田勉（象の鼻テラス アートディレクター）
プランニングディレクター:	松田朋春（象の鼻テラス プランニングディレクター）
事務局長代理:	守屋慎一郎（象の鼻テラス プランナー）
制作スタッフ:	大田佳恵、加藤育子、岡崎純、倉持陽介、大越晴子

<会場設営>	
株式会社 相鉄エージェンシー	

オフィシャルパートナー	株式会社 FREEing
特別協力	ブリティッシュ・カウンシル
助成	スイス・フロ・ヘルヴェティア文化財団 ヨコハマ夜景演出事業推進協議会
後援	オーストラリア大使館 スイス大使館
協賛	ジョイナス 日産自動車株式会社 株式会社タカラトミーアーツ 横浜港大さん橋国際客船ターミナル 株式会社ケーエムシーコーポレーション

機材提供・技術協力	オスラム株式会社トラクソソビジネス・グループ、株式会社スタイルテック、株式会社菱見、カラーキネティクス・ジャパン株式会社、関東三菱自動車販売株式会社、コードモエナジー株式会社、住友スリーエム株式会社、バイフォトニクス株式会社、三菱自動車工業株式会社、有限会社アイティラボ、有限会社タマ・テック・ラボ ※五十音順
-----------	--

会場協力	神奈川県庁本庁舎、神奈川県住宅供給公社、クロスゲート、公益財団法人横浜市緑の協会、象の鼻テラス、日本キリスト教会横浜海岸教会、日本郵船氷川丸、波止場会館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜港大さん橋国際客船ターミナル、横浜市開港記念会館、横浜税関 ※五十音順
------	---

参加・協力	イセザキ・モール1・2St、一般社団法人横浜みなとみらい21、NTTドコモ、ガス灯の魅力PRイベント実行委員会、株式会社コマデン、株式会社よこはまグリーンピース、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、シクロポリタンジャパンヨコハマ、新宿クリエイターズ・フェスタ2012学生アート・コンペティション、スターバックスコーヒージャパン株式会社、象の鼻カフェ、特定非営利活動法人LED照明推進協議会、日経BP社、日本大通り活性化委員会、日本郵船株式会社、みらいレコーズ、横浜駅西口振興協議会、横浜駅東口振興協議会、横浜コスモワールド、横浜人形の家、横浜まちづくり倶楽部、横浜マリントワー、CUEL、I LOVE YOKO-HAMA、NPO法人横浜シティガイド協会、NTT東日本 神奈川支店 ※五十音順
-------	--



Artists List

参加アーティスト

海外	Overseas
Lang/Baumann	Lang/Baumann
NVA	NVA
Pip&Pop	Pip&Pop

国内	Domestic
伊豆牧子	Makiko Izu
大谷能生	Yoshio Ohtani
谷川俊太郎 (oblaat)	Shuntaro Tanigawa (oblaat)
文月悠光 (oblaat)	Yumi Fuzuki (oblaat)
川瀬浩介	Kohske Kawase
日下淳一	Junichi Kusaka
クワクポリョウタ	Ryota Kuwakubo
SHIMURAbros	SHIMURAbros
鈴木康広	Yasuhiro Suzuki
高橋匡太	Kyota Takahashi
so+ba	so+ba
竹澤葵（株式会社FREEing）	Aoi Takezawa (FREEing CO., LTD.)
トーチカ	TOCHKA
番場俊宏	Toshihiro Banba
藤本隆行	Takayuki Fujimoto
中山晴奈	Haruna Nakayama
ハギワラシコ	Toshiko Hagiwara
MIRRORBOWLER	MIRRORBOWLER
森日出夫	Hideo Mori
やくしまるえつこ	Etsuko Yakushimaru
Rhizomatiks（真鍋大度、石橋素）	Rhizomatiks (Daito Manabe, Motoi Ishibashi)

参加大学	Universities
	京都造形芸術大学ウルトラファクトリー
	ULTRA FACTORY Kyoto University of Arts and Design
	多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース
	Tama Art University, Department of Information Design, Art & Media Course
	東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻
	Tokyo University of the Arts, Graduate School of Film and New Media, Department of Animation
	東京工芸大学
	Tokyo Polytechnic University
	東京造形大学CS-lab
	CS-lab at Tokyo Zoukei University
	東京都市大学小林研究室
	Tokyo City University Koba Lab.
	横浜市立大学
	Yokohama City University
	横浜美術大学
	Yokohama College of Art and Design
	早稲田大学理工学術院創造理工学研究所建築学専攻入江正之研究室
	Department of Architecture, Waseda University Masayuki Irie Laboratory
	※五十音順

まちなか展示会出展社
City Street Exhibition
株式会社京成電子
Keisei Electron Co., Ltd.
日東光学株式会社
Nittoh Kogaku K.K.





FREEing

玩具の企画・制作・販売
株式会社 FREEing
<http://www.freeing.co.jp>



京成電子は
街に、人に、環境に
優しい照明を
ご提供します

「帆船日本丸」を彩る投光器は
省エネ対策として高輝度 LED 照明を使用しております。

本 LED 投光器は、省エネ対策として下記企業のご協力により設置されました。

(■水銀灯 700W 代替タイプ ■消費電力 148W/台 ■設置数 36 台)

株式会社ティーネットジャパン
エンジニアリング事業本部
エコシステム事業部
0120-050-660
<http://www.tn-japan.co.jp>

株式会社京成電子 省エネ事業
TEL.045-851-1838
<http://www.keisei-densi.jp>

我が社は日本丸保存事業に貢献しています。



theta

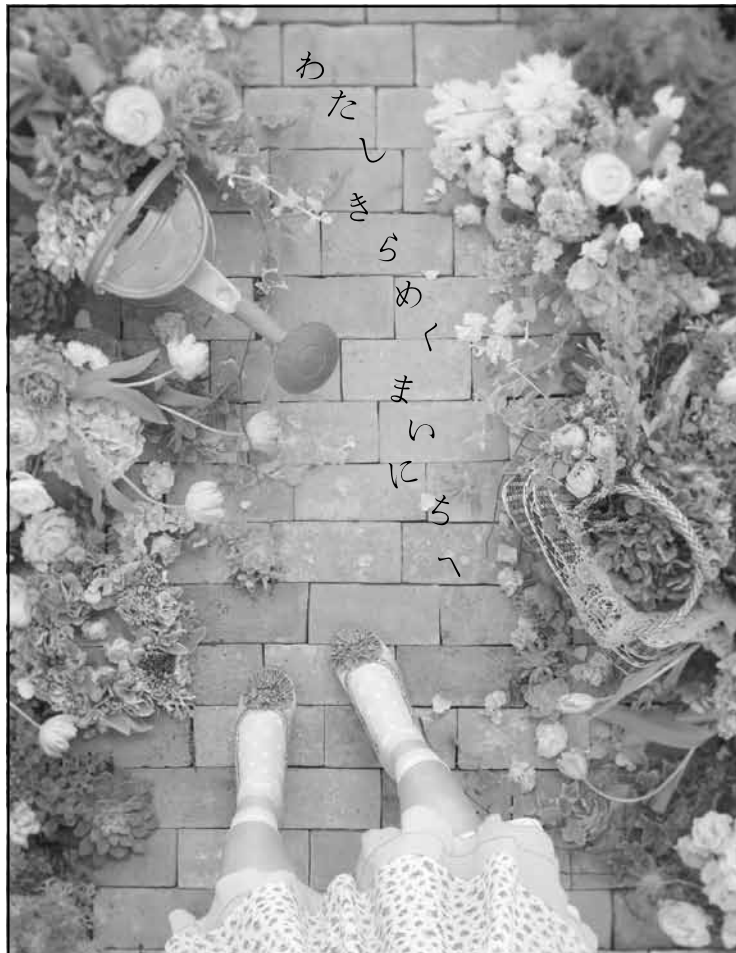
空間演出用フルカラー LED 面発光パネル

これまでにない演出表現力
やわらかく透明感のある光が中心から広がり、独特の存在感を発揮！

- 光学レンズ+DMX3ch (RGB) 制御
特殊レンズで中心の光を広げ、1677万7216色を容易に制御可能！
- 取り扱いやすく省電力
コンパクト (口100mm) で取り付けもしやすく、さらに低消費電力！

nittoh 日東光学株式会社
NITTOH KOGAKU K.K.

開発本部：長野県諏訪市上川1-1538 〒392-0021
TEL 0266-52-6240 FAX 0266-52-8875
<http://www.nittohkogaku.co.jp/>



営業時間 10:00~21:00 B1・B2レストラン街 11:00~23:00

ジョイナスインフォメーション 045-319-2438

www.sotetsu-joinus.com/

※営業時間は、一部異なる店舗がございます。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

わたしきらめくまいにちへ
JOINUS
YOKOHAMA

Project Book Credit

スマートイルミネーション横浜 2012 Project Book

編集: 守屋慎一郎 倉持陽介 大越晴子 野村梢
デザイン: so+ba
写真撮影: AMANO STUDIO

写真提供: Lang/Baumann (p 12)
MILLORBOWLER (p 16)
川口怜子 (p 19, 46, 47, 52)
村上美都 (p 21, 29, 43, 44, 47, 48, 49, 52)
横浜美術大学 (p 24)
東京藝術大学大学院映像研究科
アニメーション専攻 (p 25)
川瀬浩介 (p 27)
みらいレコーズ (p 43)
たけっと (p 28)
特定非営利活動法人LED照明推進協議会 (p 44)
NOGAN (p 53)

シンポジウム採録: 藤村恭子
印刷: 協進印刷
企画・制作: スバイラル/株式会社ワコールアートセンター
発行: スマートイルミネーション横浜実行委員会

